

活動報告

【6/6、6/18～20】

日韓の草の根交流、大阪市会日韓友好議員連盟の取り組み

武直樹は、「大阪市会日韓友好議員連盟」の事務局長として、多文化共生と地域活性化に向けた議員外交を推進しています。生野区市会議員団が、中心メンバーで尽力しています。

2026年6月18日～20日には、大阪市会日韓議員連盟として生野区と歴史的・文化的に深いつながりを持つ韓国・済州島を視察。「在日済州人センター」等を訪れ歴史への理解を深めたほか、大阪コリアタウンと姉妹商店街提携を結ぶ「東門在来市場」の夜市場を調査。生野区での夜市場実現や観光振興に向けた貴重な知見を得ました。これに先立ち、6月6日には区内でも超党派の議員とともに鶴橋や「いくのパーク」周辺のフィールドワークを企画・実施し、地域の歴史や多文化共生の取り組みを共有しました。



ありったけのチカラで生野のために！



6/6 いくのパークで学習



6/19 済州特別自治道議員と意見交換

【6/29】5年越しの訴えが結実！「大阪市居住支援協議会」設立総会



設立総会

高齢者や障がい者、子育て世帯など、住まいの確保に配慮が必要な方々を支える「大阪市居住支援協議会」が、6月29日に設立総会を迎えました。事務所の市民相談窓口にも日々「住まいの相談」があります。議会で毎年少しずつ「福祉と住まいの連携」を訴え続けてきました。5年以上かけてようやくたどり着いた、待望の第一歩です。

しかし、本当の勝負はこれからです。現在はまだ「居住支援法人」の参画が不十分なほか、今後、区レベルの実務に落とし込む際、大阪市特有の「縦割り行政（誰が調整するのか？担当はどこか？）」という壁にぶつかることが懸念されます。

【7/4】祝・東桃谷幼児の園新園舎竣工式



東桃谷幼児の園は1953年に開設し、70年を超える歴史ある園です。2年前に全面建て替え工事に着手し、新園舎が竣工しました。

建て替えにあたっては、工事中の代替用地不足や行政の縦割りなど多くの難局がありました。

生野区選出の市会議員として、代替用地の確保のお手伝いを

させて頂き、園長先生や職員、保護者やその他関係者の他、地域には3世代4世代と続く卒園生があり、皆さんの協力が実を結び、地域ぐるみで立て替えまでたどり着きました。おめでとうございます。



設計担当の大塚さんに感謝状の贈呈



園長先生・職員さんと一緒に

【7/31】生野区市会議員団で区内の学校視察

学校の改修要望など4人全員で現地説明受け現場も確認します。教育委員会の施設整備、設備管理、技術管理の担当と校長、教頭など学校関係者、生野区役所教育担当と議員団で校舎、教室、体育館などの改修などの要望箇所をそれぞれの現場で確認しながら、課題と今後の方針を確認していただけるのでとても良い取組です。



現場と一緒に確認していきます

2026 vol.69 -市民とつながる通信-

顔が見えるまちづくりで、すべてのひとに出番と居場所を！！

たけ 社会福祉士・ケアマネジャー
大阪市議員
武なおき

間合わせ先

武直樹市民協働事務所
mail: take@take-naoki.com
〒544-0003 大阪市生野区小路東1-16-27
☎06-6753-6714

市政
報告

▼公式HP



武直樹のプロフィールと念い

義理人情の生野と武なおき 七転八倒、山あり谷あります。

1972年(昭和47年)12月26日生まれ。同志社大学大学院社会福祉学専攻博士課程(前期)修了。

29歳で2歳と3歳の子のシングルファザーとなり、子育ての大変さを身をもって体験し、社会の課題にも気づかされました。生野の皆さんに助けいただきました。感謝です。36歳で再婚し、3人目の子と孫育て真っ最中です。くらしの声、現場の声を届けたいと市会議員選挙に挑戦するも2回落選。

1回目の落選直後、実家の祖父の要介護中に父が脳出血で倒れ、母が3人の介護状態になり、2人の子供を連れ岡山に8ヶ月間帰郷。9年前には、伊丹で1人暮らしをする義母が家に帰れなくなり警察に保護され、次の日から突然同居が始まりました。当事者だからこそ気付けることがたくさんあります。義母は昨年近所のグループホームに入所しました。

私は生野区社会福祉協議会でソーシャルワーカーとして7年間、多くの課題と向き合ってきました。日々の相談の中で聞く「困りごと」は多種多様でした。

高齢者や障がい者、子どもなど立場が弱くなりがちの人が生きにくいこと、誰にも頼れない孤独が存在すること、貧困など課題は山積していました。「声にならない声」を届けたい。より多くの人を救いたい。

これらを真剣に考え抜いたすえ、市会議員を目指しました。一念発起して挑んだ1度目の選挙は鮮やかに惨敗。それでもチャレンジした2度目も見事に落選。2度落選しました。

しかし、落選のたびに応援してくださる人が増えていくことに心が震えました。お金も組織票もないのですが、熱意と信念だけは誰にも負けない自負のある私。3度目の挑戦で晴れて当選しました。当選した際は応援してくださった皆さんと一緒に泣きました。

現在は4期目です。私は生野、大阪市に必要な枠組みづくりのプロセスを「つなぐ」「コーディネート」することが天職と思います。

他の人には困難と思えることも私はその役割を担えます。なぜなら、当事者として実生活を通して感じてきた経験と、福祉の専門職として最前線で多くの課題と向き合ってきたからです。

「困りごと」の内容は様々であっても、出会いと役割をコーディネートすることで、お互いを理解し合い、課題解決の糸口が見えてきます。例えば、縦割りや揉み合いの異なる行政担当者や当事者、団体などを同じテーブルに招いて議論し、課題解決に導いていく。そのようなことを繰り返してまいりました。これまでもこれからも皆さんと一緒に考え、小さな声、声なき声、多様な声を届け続けます。私の目指す生野はみんなの「出番と居場所」のある優しいまちです。

ありったけのチカラで、「市民が主役」の改革を進め、未来のために責任を果たしてまいります。

＜武直樹の最新情報はコチラ＞



Facebook



Instagram



YouTube



X

「大阪市を廃止して特別区を設置する(いわゆる都構想)の3回目の住民投票」については、必要ありません。

2015年・2020年と2回、究極の民主主義として「住民投票」を2回も実施し、大阪市を廃止して特別区を設置すること(いわゆる都構想)は否決され、大阪市の存続が決まりました。市民を賛成派と反対派に分断する3回目の住民投票は必要ありません。なぜなら、現在、大阪府と大阪市には2重行政はありません。

副首都は、大阪市を廃止しなくても実現することができます。

議会報告

【5/20 民生保健委員会】

● 介護支援専門員の負担軽減と処遇改善についての陳情に対して意見。
・業務内容が多すぎる・書類が複雑すぎる・業務外のシャドーワークが多すぎる・処遇改善してほしい・・・等々、現場の声をダイレクトに届けさせて頂きました。
社会福祉法の改正案においても、身寄りのない高齢者を支援する体制の整備をすすめる
とともに、国の社会保障審議会においても今後の施策の方向性について議論が進められて
います。
国から言われるまで待つのではなく、現場の声が届いていない現状をまずは認識し、現場
の当事者の声、専門職の皆さんの声をきいて、何が必要か考えていくこと、すぐに解決でき
ることはなくても一緒に考えて欲しいこと、を強く要望しました。

● 民泊の適正な運営を求める陳情に対して意見。

- ・迷惑民泊根絶チームの重点監視対象施設への監査指導の着実な推進を要望しました。
- ・新規受付終了後、「いまある民泊とどうつきあっていくのか？」の問題について、生野区で実施したチャレンジングな民泊勉強会(生野区役所主催/区民・町会長・民泊事業者が参加したオープンな会議)を紹介し、役所が率先して住民と民泊事業者が対話できる場の調整をして欲しいと要望しました。

【6/30、8/25 建設港湾委員会】

● 6/26、8/3の大雨により、生野区で発生したマンホール蓋飛散事故・浸水被害について

(原因は?) 当該の雨水幹線は「最上流部が行き止まり」という、空気がたまりやすい特殊な構造になっている。その地下の巨大な雨水幹線(直径5メートル)に大量の雨水が一気に流入。管内の空気が圧縮され、その風圧(空気圧)で押し上げられ発生した。8月3日に再度水柱が立ち、道路がめくられました。大雨時にはマンホールに近づかないよう、注意喚起しています。
(再発防止対策は?) すでに「飛散防止型の蓋への交換」や「排気管の設置」などの対策を進めている。令和8年度末の完成に向けて、これらの整備を着実に進める。
住之江抽水所ポンプ停止との関連を心配する市民の方も多くいましたが、関係はありません。



今里筋におけるマンホール蓋飛散に伴う今後の対応について

● 住之江抽水所のポンプ停止について

6/26の大雨によりポンプ室に雨水が侵入し、ポンプ6台すべての運転が不能になりました。

「なにわ大放水路」雨水ポンプ停止に関する取組について

建設局 R8.8 作成

○排水機能の回復

※水没したポンプのうち1台をオーバーホールにて復旧可能とした場合の取組工程を示しており、今後の現地調査の結果により、変更となる可能性がある。

- 緊急対策 (本復旧までの大雨への備え)
- 本復旧 (完全な排水機能の回復)
- 出水期 (6/1 - 10/31)

		R8年度				R9年度				R10年度				R11年度			
		4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1
緊急対策	仮設ポンプの増強	排水能力の維持															
	寝屋川流域全体での取組	国・府・市の検討会で検討・具体化															
本復旧	原因究明・再発防止策の検討	有識者会議の開催															
	ジョイント復旧	応急処置(破損部閉塞の緊急対応等)															
	オーバーホールによるポンプ復旧1台	本復旧(再発防止対策を踏まえた対応)															
	機器更新によるポンプ復旧5台	R9年度出水期までに稼働															
排水能力(m³/分)		—	32	118	138	874				1,609 ~ 4,500							
30万m³排水日数		約7日	約2日	約1.5日		約6時間				約3時間~約1時間							

今里筋マンホール事故・住之江抽水所のポンプ停止等...

詳しくはこちら>> 大雨に備えて



議会質疑はライブ試聴、録画視聴ができます。

大阪市会 中継 Q 検索



【7/21】 ごみ焼却場のひっ迫について横山市長へ緊急要望

大阪市・八尾市・松原市・守口市で構成される大阪広域環境施設組合は、6箇所の焼却工場で一般廃棄物を焼却処理しています。
しかし、ごみ焼却処理がひっ迫した状況が明らかとなりました。処理能力不足は、市民生活・公衆衛生・都市機能に大きな影響を及ぼすものであり、7月21日横山英幸大阪市長に、会派から「一般廃棄物処理体制の強化及び焼却施設整備に関する緊急要望」を行いました。



ごみ貯留量が少ない状況



現在のごみ貯留量の状況



緊急要望

【7/29 環境対策特別委員会】/【7/9、7/31、8/25 大阪広域環境施設組合議会】

● ごみ処理場のひっ迫について質疑

令和2年策定一般廃棄物処理基本計画では、令和7年ごみ処理量の計画量は84万トンだったが実績は88万トン。事業系ごみの増加により、大きな乖離が生じた。計画と実績の乖離は、令和4年から年々拡大しており、大阪広域環境施設組合と大阪市がどのような協議を行い、どのような対策や判断をしてきたのかを確認しました。
計画において、ごみ処理能力の余力を「10%」としてきた根拠は? 昼間人口の多さや事業系ごみの増加、災害時対応などを踏まえた上で、現在の余力設定が適切なのか? 質疑しました。

→ (組合より返答) 10%の余力は季節変動や設備故障などに備えるためのものであり、基幹改良工事による老朽化対策を進めることで安定的な処理体制を確保する。

計画と実績の乖離が今回の処理逼迫の一因となっています。

市長(組合管理者)に対して、

- ★IR開業によるごみ増加や災害対応、広域連携、処理能力の余力のあり方などを長期的・多角的に検証する必要性
- ★大阪市と環境施設組合の連携を強化し、必要に応じて焼却工場整備計画の見直しや広域連携の検討を進め、安定したごみ処理を要望しました。



【5/28】 武直樹の提案実現! ジモティスポット大阪住之江店がオープン

不用品の処分といえはすっかりおなじみになった「ジモティ」。5月28日大阪市内初のジモティスポットが住之江区にオープンしました。

12月15日議会において、粗大ごみ処理量の推移とリユースにかかる事業者との連携協定について質疑・提案しました。

大阪市が収集する粗大ごみの処理量は令和2年度が19,877トンに対し、令和6年度が17,922トンと5年間で1,955トン約1割減で減少傾向にあります。さらなるごみ減量のために、大阪市は3R(「リデュース(Reduce)」「リユース(Reuse)」「リサイクル(Recycle)」)の推進を担う事業者「ジモティ」と連携協定を結んでいます。

ジモティでは現在全国259の自治体と連携協定を結び、そのうちの25の自治体では拠点型のジモティスポットに取り組んでいます。この取り組みは、スーパーなどの民間拠点が協力し、自治体は広報(周知)に専念するという、公費負担の少ない優れたスキームであり、ぜひ大阪市でも研究・導入すべきであると提案し、実現しました。

→ 7月29日環境対策特別委員会にて、ジモティーとの連携協定や市民への周知方法等を確認。オープン1か月強で、すでに7.7トンがリユースされており、ごみ減量につながる取り組みです。今後も地域に密着した取り組みとして、広がり活用されるよう、住之江区役所との連携等、大阪市の役割・調整を要望しました。



大阪市×ジモティ